金澤　浩　議員

町民に寄り添った安全安心を

従来基準にとらわれず、街路灯を増やす

社会奉仕活動で、まちづくり

問

①街路灯が少なく、防犯上、子どもや女性が不安だとの声が多い。安心できる施策は。

②高齢化で、コミュニティバス路線拡充の切望あり。タクシー補助を加え、２本立ての住民サービスはどうか。

③防災無線受信機を各区長宅に配備。区長が住民に情報伝達する前提だが、停電時は。他市町のように防災ラジオの全戸配布の考えは。

④伊方原発３号機が再稼働した。事故が起これば、放射性物質が、風向き次第で、本町に飛来する。避難計画などの対策は。

総務部長

①町政懇談会やまちづくり女性会議でも要望が多いため、まずは危険箇所の調査を行う。これまでの手法にとらわれず街路灯設置を検討する。夜間の安全対策は「広報まさき」の紙面などを通じ、今後も啓発を継続していく。

町民課長

②コミュニティバスは、町内のほぼ全域を網羅して運行している。重ねてのタクシー補助サービスの考えはない。但し、福祉の観点からは研究していく。

総務課長

③通信手段が使えない場合は、区長の直接訪問で対応したい。

町　長

④町の地域防災計画の原子力対策編に、屋内退避を中心とした避難計画を盛り込み、今年度内には改定したい。原発については、正しく恐れるということが必要だと思っている。安全性と防災対策を含めた広報に、しっかり取り組んでいきたい。他には、広報車による巡回、携帯電話やスマホへの緊急速報メール配信など、情報伝達の多重化で対応する考えだ。

★被災地を参考にした最悪の事態を想定し、対策を考えるべきだ。